横須賀市長臨時記者会見（2026 年９月 24 日）

14 時 00 分～14 時 30 分
横須賀市役所３号館５階　正庁

１　台風第 25 号の対応について

市長
急遽、お集まりいただきありがとうございます。まずは、改めまして、この度の台風第 25 号による土砂災害により、亡くなられた３人の方に、心よりお悔やみを申しあげますとともに、被害に遭われた全ての方々に心からお見舞いを申しあげます。本日の午前中に、私以下、両副市長、教育長、上下水道局長、及び全部局長出席のもと、復旧対応に関する緊急会議を行いました。そこで改めて被害状況を確認するとともに、市民生活の再開に向け、全力で、全庁をあげて対応するよう、指示をしたところです。この後は、その会議で確認した事項を中心に、お伝えいたします。
今回の台風接近にあたっては、連休中での最接近が予想されていたため、接近前の９月 18 日金曜日から土曜日、日曜日と、常に情報収集や体制の確認を行い、各部局に指示をし、全庁万全の体制を準備しておりました。最接近となった 21 日月曜日には、午前８時 00 分から、市内のコミュニティセンターを中心に、20 カ所の風水害時避難所を設置し、同時に高齢者等避難を、その後には、市内全域に避難指示を発令しました。また、午後１時 30 分からは、全ての部局からなる警戒配備を敷くなど、全庁体制で臨みましたが、降り始めからの総雨量が、450㎜ 以上となる地点が生じるなど、昭和 49 年の七夕豪雨を超える過去に例を見ない雨量に見舞われました。このためピーク時には、避難所に 126 人の方が避難されたほか、また、多くの土砂崩れや冠水が発生し、市内各所で道路交通にも大きな影響が生じました。停電や公共交通機関の乱れも生じる中、市役所の各部局はもとより、消防局、消防団の両ＬＴＦも出動し、対応しましたが、残念なことに、３名の方が、犠牲となられました。現在も、通行不能となっている道路や、被害が生じている住居も多数ございます。一日も早く、元の市民生活が再開できるよう、引き続き、協力事業者と力を合わせ、道路の啓開や、土砂崩れの復旧作業等に、全力を上げていく所存です。
また、市民の皆さまには、今回の甚大な被害に、様々にご不安があると思いますので、至急、市の公式ホームページにて、支援メニューや相談窓口を網羅したサイトを作成します。これについては、今日中の開設を予定しており、完成し次第、公式 SNS で周知いたします。市民の皆さまには、今しばらくご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、何とぞ、よろしくお願い申しあげます。
なお、今週末に予定されていた開国花火大会ですが、台風被害の状況を踏まえ、災害対応を最優先とするため、開催を中止します。開催を楽しみにされていた皆さま、開催に向けてご協力いただいた関係者の皆さまには、申し訳なく思いますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申しあげます。これ以外に予定されている 10 月中のイベント等につきましては、現在、精査をしており、近日中に、対応をお伝えする予定です。私からは以上です。

■質疑応答

記者
最初に網羅的にいろいろお伺いしていきますので、市長ないし危機管理の担当の方でもお答えいただければと思います。まず、市内の被害状況ですが、公共施設に関して被害等はございますか。

横須賀市 市長室長
今のところ（建物の）大きな被害は聞いておりません。これから、至急細部の点検等は進めないといけないと思っております。安全確認の上、施設を開放していきたいと思っております。

記者
今回の台風による豪雨の特徴について、どのような被害が多かったかという市長の所感と、事務方の皆さまの実情を教えてください。

市長
昭和 49 年の七夕豪雨は、ちょうど私が二十歳の頃でした。平作川が氾濫して 13 人の方が亡くなられました。それ以上の雨量に、横須賀が襲われることを想定していませんでした。当時、平作川も工事し、急傾斜工事も進み、かなりの冠水対策や急傾斜対策が行われたと思っていましたが、これほどの豪雨に見舞われることを想像していませんでした。急傾斜対策が進んでいたと思いましたが、冠水よりも、山の崖崩れの被害がここまで増えるとは思っていませんでした。残念ではありますがこれを機に、益々徹底して危機対策を行っていきたいと思っています。

横須賀市 市長室長
線状降水帯の半日前予測が出て、直前予報も出ました。まさに雨が長期間に渡ったということと、その中に強い雨が降ったということで、非常に想定外と言いますか、大きかったなと思っています。市長からも話がありましたが、横須賀は崖が多いということで、特に民有地の崖の被害が非常に多かったと痛感しております。

記者
崖の被害が多かったとのことですが、土砂崩れがあった現場は、いずれも崖でした。横須賀市として、資料１枚目の時系列のところにあるとおり、土砂災害のレベル４が出て、避難指示も発令していた。しかし、避難所に避難したのは 126 人がピークだったというところでした。亡くなった方もいらっしゃる中で、判断が難しい、言い方には気を使わなくてはならないと思いますが、本来であれば、逃げることが適切であったのかどうか、要は逃げなければならいという、その辺の周知に対して、うまくアプローチ出来ていたかどうか、市長の所感をお願いします。

市長
そこはこれから確認と検証をしなければならないと思っています。職員に指示をし、全ての方々には何らかのお伝えは出来ていたのではないかと思っていますが、改めて、もう一度確認しなければならないと思っています。ただ、今、言ったように民有地の崖をどのように判断したら良いか。横須賀には、かなり多いのです。犠牲になられた方だけではなく、横須賀には、ご承知のとおり、かなり山が多い。このような状況の中でこれからは考えていかなければならない、一つ一つ検証しなければならないと痛感しています。同じことがあったとしても、犠牲のないように、何をしなければならないか、考えていかなければならないと思っています。

記者
週末に、また雨が近づいてきていること、土砂崩れへの警戒と、災害ボランティアの準備もあるかと思います。社協（社会福祉協議会）とは、どのような連携をし、災害ボランティアの受付はどのようにお考えでしょうか。

横須賀市 市長室 危機管理課長
今回、（※）災害救助法に該当しないのではないかとも考えておりますが、災害ボランティアの皆さまの支援は大変有効だと考えています。できる限り、支援を受けたい人、支援をしたい人のマッチングが重要だと思っていますので、しっかりと対応していきたいと思います。
（※）2026 年 9 月 21 日付で、横須賀市は災害救助法の適用を受けた（9 月 30 日に決定）

記者
時期に関してはいつ頃でしょうか。

横須賀市 市長室 危機管理課長
今日の会議で、話をいたしましたので、今後、福祉こども部と調整していきます。

記者
先ほど災害救助法の話もありましたが、今回、横須賀では農地も崩れたかと思います。農地復旧に

国庫補助が使える「激甚災害」の指定や、公費解体に使える「特定非常災害」、全壊世帯に最大 300 万円支払う「生活再建支援法」もありますが、どのように国や県に相談、申請をされるのでしょうか。

横須賀市 市長室長
このシルバーウイーク中の災害直後に、小泉大臣の事務所の皆さまですとか、また、昨日、関東農政局の方々が、三浦半島の視察にきました。特に農水産物の被害等に対しての様々な支援がありますので、是非全面的に活かしてほしいとお言葉をいただいております。細かい調整はこれからですが、まずは被害状況を拾って県や国にお願いしていきたいと思っています。今日、農協主催の状況の共有会議が行われ、農水産業振興課長も出席しています。その場にも関東農政局の方がいらっしゃったと聞いておりますので、国の皆さまにもご協力いただきながら、連携して進めていきたいと思っております。

記者
最大 126 人が避難していたとのことですが、いつ時点の数字でしょうか。

横須賀市 市長室長
資料にもありますが、９月 21 日月曜日の 21 時がピーク時で、75 世帯 126 名の方が非難されていました。

記者
被害総額はこれから算出していくのでしょうか。

横須賀市 市長室長
まだ、これからです。

記者
今回、取材している中で、横須賀でこんなに雨が降ったのは初めてだとの声を聞きました。また大雨や台風のシーズンが来ます。市長、常々、千葉豪雨の時にも、間一髪という話をされていましたが、横須賀・三浦で大きな被害があり、改めて、対策・対応についてどのように取り組むお考えでしょうか。

市長
これから同じような線状降水帯が来ることを前提に考えたときに、今回の対応を含めて、もっともっと体制を充実させなければならないと考えています。全庁の体制を充実し、様々なことを調査しなければならないと思います。対応能力を高めていくようにこれからも全力をあげていきたいと思います。

記者
各自治体と防災協定や連携協定を結ばれています。こうした協定を活用するご予定はございますか。

横須賀市 市長室長
この連休中には、各自治体、首長の皆さまから、ご心配の声をいただいております。「何かあれば手伝うよ」とお言葉をいただいておりますが、連休中はそこまでの状況になかったので、お受けはしておりません。これから様々な対応をしていく中で、何かあれば協定に基づいて、是非とも協力、ご支援をお願いしたいと思っております。

記者
連休中の公務で会津若松市に行かれていましたが、戻ってきてからはずっと待機ということでよろしいでしょうか。

市長
全て連絡を取りながら、指示をしていました。

記者
会津若松に行かれていたのはいつでしょうか。

横須賀市 市長室長
土曜日と日曜日です。会津では日曜日の午後に大きなお祭りがあったのですが、早めに切りあげて、台風の接近に合わせて、夕方には横須賀に帰ってきました。

記者
先ほど市長がおっしゃったように民有地の崖については、行政ができることは限界があると承知の上ですが、普段は民有地の崖、危険地に対して、行政がどこまで何が出来ていて、今後どうしていくのか、民有地の崖に特化して教えていただけますでしょうか。

横須賀市 市長室長
これは、様々なケースによっては、いろいろな制度等もなくはございません。ただ、ご承知のとおり、民法ですとか法律によって、そもそもの地権者の方々に、いわゆる管理責任がある中で、横須賀市が、行政がやれることは非常に少ないと思っております。そんな中で、様々な制度もありますけれども、根本的な解決はなかなか難しいというのが現状だと思っております。これからもこれは本当に大きな課題かなと思っております。

市長
一点、七夕豪雨から、今回に至るまでかなり急傾斜は横須賀、三浦半島で進んでいまして、あの反省から急傾斜対策を進めてきたと思っております。ただ、今、おっしゃったように民有地の関係でまだまだ崖が多いので、その分残っているということがあります。これからなにができるか、また考えていきたいと思っています。

横須賀市 市長室長
細かい制度を、もしよろしければ、建設部長から補足をさせていただきます。

横須賀市 建設部長
急傾斜地について少し説明させていただきます。民有地を公共が整備するのは、おそらく急傾斜地崩壊危険区域のスキームしかないと思っています。神奈川県では、やはり横浜、それから横須賀地域はかなり整備が進んでおりまして、ほとんどの危ない崖については、今、市長も申しあげましたが、昭和 49 年の七夕豪雨以来、ずっと整備を続けてきたところだと思っています。
基本的には県がやっている事業ですけれども、ただ、採択要件ですとか、やはり家屋が集中しているところから進めてきた経過がありますので、家屋が点在するところには、なかなかまだ行き届いていない現状はあるのかなと考えております。

記者
避難指示の発令は、対象は、市内全域でしょうか。

横須賀市 市長室長
まず、高齢者等避難につきましては、最初から市内全域に発令いたしました。これが 21 日月曜日の朝８時の段階です。その後、10 時５分、レベル４の土砂災害危険警報の発表とあわせまして、横須賀市では避難指示を発令しております。この段階では、町名で言いますと、７町、吉倉町、汐入町、衣笠町、根岸町、池田町、吉井、桜ケ丘、最初の段階ではこのエリアに発令いたしました。
気象庁の発表するレベル４のエリア、これは土の中の水の量を観測して危険度を出します。横須賀市の地図がありまして、そこにメッシュが切ってあります。メッシュが紫になるとレベル４になるのですが、それとほぼイコールで避難指示としており、紫になった地域から順次避難指示を発令し

ました。その後、市内のメッシュは４、５カ所を除いて全てが一気に紫になり、最後には、21 日月曜日の 13 時、午後１時の段階で、もうほぼ全部が紫になったということで、市内全域を避難地域対象地域とさせていただいたところです。

記者
ありがとうございます。そうすると、21 日の 13 時段階では、市内全域に避難指示が出ていたと。この時の全域の対象者数は、イコール住民の数になりますか。

横須賀市 市長室長
はい。対象世帯数が 16 万 4244 世帯、対象人数が、イコール人口になりますけれども、36 万 1116 人が避難指示対象となりました。

記者
ありがとうございます。すると、この 36 万の中に対して避難指示が出て、ピーク時で避難ができたのが 126 人。避難率という形で、人口を分母にして、避難者数を分子にすると、おそらく１％を切ります。この数字を捉えて、市長はどう受け止められますか。

横須賀市 市長室長
このピーク時の 126 人は、例えば、今年のこれまでの３回の風水害避難所開設時のピーク時と比べましても、これは圧倒的に多い、桁が違うくらい多い人数でございます。そういった意味では避難者は多く来ていただけたのかなと思っております。
合わせて、先ほどご質問もありました避難指示ですけれども、これは必ずしも市が開設した避難所への避難指示ではなく、安全な場所への避難指示です。例えば、一番身近ですと、ご自宅の 2 階以上ですとか、ご自宅が、すぐ横に山を背負っていれば、崖から離れた側のお部屋ですとか、そういったところへの避難や、合わせて、例えば近所の町内会館、お知り合いのご自宅ですとか、崖を背負っていないような安全な場所などもご案内しております。そういったところに身近な場所がない場合には、横須賀市が開設する避難所ということで、昨今では市内で 20 箇所開設をさせていただいているところでございますので、「126」だけを持ってどうこう言えませんけれども、これまでより非常に多かったということで、市民の皆さまは、非常に危機感を感じて避難していただけたのかなとは思っております。

市長
一概に 126 名というものを、今、言ったように、パーセンテージでは考えられないと思っています。

記者
今は、垂直避難の呼びかけなどもあります。では、数字は通常よりも多いとした上で、改めての質問です。市長のご認識は、広い意味での避難は、ある程度十分に行われたとお考えですか。

市長
はい。そのように、今のところは考えています。エリアとか地域によって実情が違うのと思います。横須賀というのは、様々な場所があります。その意味では、今の（お話にあった）数というのは、それなりに、皆さま、理解していただいたと思っています。

記者
ありがとうございます。わかりました。それで、この後の罹災証明の関係、スケジュール的に決まっているところはございますか。

横須賀市 市長室長
はい。今日から、開庁時間に合わせて申請にお越しいただいている方がいらっしゃいます。
詳しいやり方ですとか、皆さまご存知ない方も多いと思いますので、この後、今日もしくは明日の早い段階で、一般的な手続きの方法ですとか、その他にも実際に被災された方がお困りであろうこ

とへの支援等をホームページにまとめて、ポータルサイト的にしたいと思っています。今、横須賀市の LINE には、約 17 万人が登録いただいています。ＬＩＮＥの一斉配信等も活用しながら、なるべく多くの方々に周知をさせていただきたいと思っております。

記者
今日から受付が始まったということですか。

横須賀市 市長室長
今日、午前中からお越しいただいておりまして対応させていただいております。

記者
午前中で何人来ているのか数字は出ていますか。

横須賀市 市長室長
20 件ぐらいです。

記者
市長、能登ですとか熊本ですとかの例をこれまで聞かれて、やっぱり職員の派遣をされる時に、罹災証明のところで詰まっちゃったと、もうどんどん出すべきだと、そこのところに注力すべきだという趣旨のご発言はこれまでされてきていると思います。今回まさに、横須賀市がその場所になるわけですが、どう対応されるご予定でいらっしゃいますか。

横須賀市 市長室長
かねてより、市長からはＡＩ化の指示を受けておりまして、まだこれはできていませんけれども、我々は事業者と、これからやりたいということで要望を出しているところです。今はできませんが、他都市においては、熊本ではＡＩ化とはいかないまでも、デジタル化の申請はかなり進んでいると聞いております。ただ、デジタル化で一斉にお受けしても、どうしても人が確認すると、ボトルネックになってしまって、非常になかなか、発行、証明できていないというような実情もあると伺っております。ここは、我々は、マンパワーになりますけれども、総力を挙げて、体制整えて担当部局だけではなく、応援部隊も含めてやっていこうと、今日、午前中の会議で市長からも指示を受けたところでございます。

記者
その 20 件というのは、現状では詰まっている感じではないのですか。

横須賀市 市長室長
まだ今日は開庁して 20 件でしたので、市長室の職員で対応させていただきましたけれども、これから多くなれば、ちょっとどうなるか分かりませんので、そこは柔軟に必要な人員を配置して、しっかりと対応していきたいと思っています。

市長
まさかこんなに早く来ると思っていませんでした。申請主義からＡＩ主義に変えたいと思っていた矢先でした。今、その指示はしております。

記者
一部報道では、今回亡くなった方、長井に住まわれる方は、事前に崖に対する不安を、市の方に相談をしていたというような報道があります。実際、市の認識としては、今回、亡くなった方、亡くなった方の関係者からそういった相談を受けたという認識があるのでしょうか。

横須賀市 建設部長
今回、崩れた方の裏に市道がございまして、それを挟んで崖がございました。そういう意味で、

我々が地権者、住んでいる方からご相談をいただいて、崖の所有者の方に、何とかしてほしいというお話を一緒にお話ししたという経過がございます。

記者
相談を受けた方と言うのは長井一丁目、二丁目どちらの方でしょうか。

横須賀市 建設部長
一丁目の方です。

記者
一丁目の方から、どういった危険性を訴えた相談だったのでしょうか。

横須賀市 建設部長
やはり崖からポロポロ崩れてくるというようなご相談です。

記者
相談してきた方は亡くなった女性の方の夫でしょうか。

横須賀市 建設部長
夫です。

記者
いつぐらいそういった相談を受けていたのでしょうか。

横須賀市 建設部長
もう２、３年前からだと認識しています。

記者
２、３年前から、複数回でしょうか。

横須賀市 建設部長
複数回です。

記者
市として相談を受けた後、例えばこれ、県につなげたとか、どういった対応をされたのでしょうか。

横須賀市 建設部長
まずは、民有地の所有者の方にお願いをしたというところです。それ以上はやりようがなかったというのが正直なところです。

記者
民有地の所有者の方は、市側の連絡に対してどのような反応をされていたのでしょうか。

横須賀市 建設部長
話は、当然伝わっていますが、なかなか費用など、そういう面では対応できないとのお話があったと認識しております。

記者
民有地の崖ですが、何か対策や工事が必要な何か所見というのは出ていたのでしょうか。

横須賀市 建設部長

そこはなかなか難しいです。崖ですので、いつ崩れるかというのはなかなか予見できないので、そこら辺はなかなか難しいです。

記者
市に相談が来た情報というのは、基本は事業主や県になるかと思うのですが、これは県の方にも情報共有はされていたのでしょうか。

横須賀市 建設部長
県にも要望が行っているとは伺っています。

記者
それは、夫が県にも相談をしているということですか。

横須賀市 建設部長
そこは、すみません、私ども把握しておりません。県からはそのような情報を受けています。

記者
こういった相談を受けて、今後、市としては、なかなかできることと、できないことがあるとは思うのですが、今後、市長として行政としてどのようにやっていきたいと思っていますか。

市長
難しいです。横須賀中、そういうところばかりですので。様々なところでそういうご相談を寄せられるのですが、今の法律上、できることとできないことがあります。民有地に関して。だからこそ、これから様々なことを検証していかなければならないと思っています。これを機にいろいろと相談や、法律以外にできることがあるならば、積極的に何とかしていきたいと思っています。

記者
ありがとうございます。最後に、先ほど市長もいろいろ検証されるとおっしゃっていたのですけども、現時点でこういう教訓といいますか、何かこういうのを見直さなければいけないといったことはありますでしょうか。

市長
今のところ、横須賀は崖だらけ、民有地だらけで、歴史的にも推移してきましたので、その問題を常に抱えていますので、これからも鋭意検証しながら、様々に取り組んでいきたいと思います。

記者
確認をさせていただくことが２点ありまして、１つ目が、資料の市内の被害状況のところです。70代女性１名が警察の死亡確定待ちという状況ですが、これは現在の状況は分かりますでしょうか。

横須賀市 市長室長
こちらの方ですけれども、24 日、本日ですけれども、13 時 48 分に横須賀警察署の方で、監察医により死亡が確定いたしました。

記者
ありがとうございます。もう一点、横須賀市消防局の方で、三浦市の行方不明者の捜索に当たっているとの話を伺っています。もしその体制などが分かれば伺えればと思います。

横須賀市 消防局長
現在三浦市の南下浦町で発生している事案に対応しているところでございます。ここは倒壊の危険性が高いので、なかなか活動が思うように進んでいない状況です。現在、消防、消防団、それから自衛隊、あとは救助犬を導入して対応に当たっているところでございます。

記者
消防局の体制の人数等もし分かれば伺ってもいいでしょうか。

横須賀市 消防局 指令課長
消防局の今現在、出動している部隊の人数としましては、10 名程度というふうに聞いております。消防団と他機関がございますが、その人数については、消防の方では把握しきれておりません。

記者
三浦市の方は、消防団の LTF も出ていましたか。

横須賀市 消防局長
三浦については、昨日は出ておりません。

記者
浦賀は出ていましたか。

横須賀市 消防局長
浦賀も出ておりません。

記者
昨日、三浦の現場に重機だけ運んで結局使ってなかったように見えました。あれは使っていなかったのでしょうか。

横須賀市 消防局長
長井の現場が終わり、三浦に行ったのですけれども、運んだだけで、活用はまだしておりません。

記者
イベントの中止関係ですけれども、現在、決まっているのは26日の花火と、その花火につながるポートマーケットのパルクールなどの体験イベント、これも中止になりますか。

横須賀市 市長室長
花火以外のイベントにつきまして、イベント、式典、催しいろいろありますけれども、全ての案件について、市主催、もしくは市が実行委員会等として入っているものですとか、共催イベントにつきましては、一両日中に早い判断をして、これもできればまとめて、何かの形で発表させていただきたいと思っております。まだ、今決まっているのは花火大会だけです。

記者
ということは９月末までのイベントですか。

横須賀市 市長室長
今、考えていますのは、当然この土日以降で、とりあえず10月分ぐらい、１ヶ月分ぐらいまで、１回洗い出しをしまして、市長以下、相談していきたいと思っております。

記者
先々で言うと、例えば 10 月 10 日に秋のカレーフェスタが、25 日にみこしパレードがあるかと思います。ここも、今、検討している最中ということでしょうか。

横須賀市 市長室長
やめるということではなくて、個別に検討していきたいと思います。

以上